



## 地域活性化と大学の役割

千

字  
万  
感

国立大学法人岐阜大学  
学長 森脇 久隆

少子高齢化が急速に進行する現在の日本において、地方創生、地域活性化は健康でバランスのとれた国土を維持・発展させる上で必須の課題です。一方、国立大学は2016年以降それぞれのミッションから主に「人材育成などで地域に貢献」する大学、「特色ある分野での全国的、世界的な教育研究」を行う大学、「世界で卓越した教育研究」を目指す大学、に大きく類型化されました。私ども岐阜大学は中部地方・東海地区・岐阜県に立脚する中規模総合大学として類型Iを選択し、「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を目指すことを宣言しました。今回は地域活性化に果たす大学の役割について、このような立場から若干の考察を加えてみます。

さて一定の地域に活性化を担う人材が定着するためには、そこに仕事(自営あるいは雇用)があることがまず必要条件です。加えて、望ましくは家族として定住して頂くために、妊娠・出産から高齢期までを一貫して支える医療サービスも不可欠であることは容易に思いつきます。もう一つ、大変重要な条件として子供に優れた教育を授けることが出来る環境があります。実は若い夫婦が地方を離れる動機に、この教育環境の問題が大きく影響しています。

では雇用の問題から。中部地方は日本を代表するものづくり産業の集積地区ですが、それを下支えする中小の企業が本当に多様な地域に分布し、本丸に劣らない福利厚生を社員に提供しています。少子高齢化の影響をくぐり抜け、IoT、AIを駆使してこのような企業を一層活性化させることが大学に於ける産学連携機能の責務ですが、従来は必ずしも企業側の需要に応えることが出来ていない嫌いもありました。この課題に共同研究・受託研究、社会人の学び直しを含む人材育成教育、さらに情報提供・技術相談を通して複合的なサービスを提供することが私ども大学のミッションです。同様の責務は中部地区の別の強みである食品・農林畜産業についても言うことが出来ます。

さらに医学教育と地域枠を介した医師の定着事業、地域の特性を理解しそれに立脚した教育を行うことが出来る教師の育成・定着など、医学部、教育学部の地域活性化に於ける役割も一層重みを増します。

以上の責務を総合的に推進しながら、地方創生における大学の役割を果たして参ります。